



第36号
国立市谷保3062
堀田 勲 576-0995
印刷: ジャノメサービス

地域活動と会員増強

支部長 堀田 勲



昨年の総会において支部長にご推薦いただき総会の承認を得てから早くも一年が経過いたしました。その間、会員の皆様から格段のご支援をいただき、厚く御礼申しあげます。

おかげさまで、予定した年間行事も滞りなく実施することができました。会員増強につきましては大学当局から国立市在住者の名簿を入手し、支部の活動状況を記載した文書とともに、支部未加入者宛てに勧誘文書を発送いたしました。その結果一〇名ほどの新会員を確保することができました。他支部同様我が支部も新会員、特に若い

人たちの入会に苦慮しているところではありますが、若い人たちにも魅力のある支部の構築を是非とも実現したいと思っております。

若い人たちには私達のようなOB会は年配者が集まって学生時代をノスタルジックに思い出して昔話ばかりしている会だと映っているのではないのでしょうか。「そんなところに若いおれたちが入ってもおもしろくない：やめておこう」そのように思っているのではないかと推察しております。

確かに支部活動の第一の目的は会員相互の親睦であり、我が支部も新年会、納涼会、会員旅行等を年間行事の中心に据えておりますが、一方、私たちの支部は早い時期から「市民まつり」「くわんらまつり」に参加し、法律相談、バザーなどを実

施してまいりました。また、市民向けに大学の「学術講演会」を積極的に開催するなど外向きの活動にも他大学のOB会に先がけて力を入れてまいりました。そのため、市の諸団体の中でも「白門会」というと「あ：中央大学の」というように広く知れわたるようになったのであります。

これからも、役員のみならず、大勢の会員の皆様の参画を得て、これらの活動をさらに盛り上げて行きたいと思えます。

そうすれば、若い人たちも「くにたちの先輩はなかなかやるじゃないか」ということで、お互いに、対等な立場で、よりコミュニケーションがとれるのではないのでしょうか。実際に「市民まつり」などで若い夫婦が近づいてきて「私たちも中大卒業です」と声をかけてくれたりします。このように親睦行事のような内向きの活動と同時に外向きの活動も積極的にすることが、会員の増強(将来の会員予備軍の増強)につながるのではないかと思います。

私達の会は一部の人の会ではありません。みんなの会です。私は自分の使命は皆さんが「あ・国立白門会に入って良かった。楽しい会だ」と思っているだけのようにコーディネートすることだと思っております。

世界の中で存在感のある中央大学の 実現に向っての募金活動について

母校中央大学は八年後の平成二十二年に創立一二五周年を迎えるにあたり、次の五つの目標を掲げ、全学的に推進する「創立一二五周年記念プロジェクト」を発足させました。

- 一、人間性、国際性豊かな人材の育成
- 二、世界で活躍するプロフェッショナルの育成
- 三、世界レベルの研究成果の発信・交流
- 四、都市・地域と一体となった知的資産の創造と活用
- 五、以上の大学づくりを実現するためのキャンパス整備

このプロジェクトの目指すものは母校を二十一世紀における新しい社会を創造する高等教育機関とすることであり、「世界の中で存在感のある大学」を実現させることにある。この総事業費は二二五億円で、その内の一〇〇億円を募金でまかなうということである。

記念事業の概要

- 1 世界で通用する高度専門職業人教育の充実計画及びその教育拠点となる市ヶ谷キャンパスの整備

- 2 理工学部・大学院理工学研究科の教育研究体制の充実、後樂園キャンパス新棟建設
- 3 文系学部・大学院の教育研究体制の充実
- 4 学生のキャンパス生活及び課外活動の充実と多摩学生生活関連棟建設
- 5 国家試験に強い本学伝統の更なる発展と多摩学生研究棟「炎の塔」建設
- 6 各学部・大学院教育等に対する支援体制の強化と文化・スポーツ活動の充実
- 7 大学と社会の人々との自由・活発な交流の促進

募金活動計画

- 1 募金の目的
創立一二五周年事業に要する資金の調達
- 2 募金総額 一〇〇億円
- 3 募金の種類
一口5万円以上

但し金額に関わらず受付

4 募金の期間
最終 平成23年9月30日
当支部募金委員

能味寿哉 堀田 勲
丸本 大 風間 健

立川支部長 市川裕通氏 黄綬褒章受章の祝賀会

前支部長 能味寿哉

今年二月十六日(土)、快晴に恵まれた立川市内のパレスホテルで、表記のおめでたい会合があり、国立支部からは新旧支部長の堀田、能味がよばれたほか、当日頂いた出席者芳名録によれば、山口康雄、玉利武人、中嶋順敬の諸兄の名も載っていた。さて、「黄綬褒章」とは、国が与える褒賞栄典の一つで、社会、公共、文化などに尽くした人を表彰して記章とともに授与されるが、殊に黄綬は、長い間業務に精励し、人々の模範となりうる者に黄色の綬とともに授与されると、三省堂版大辞林に述べられている。

私は市川さんが酒類販売の業界でまともな役として日夜勉勵されていることは知っていたが、梅田立川市議会議長から都内で四人目の受賞者となるお話を伺い、また酒類免許制度の緩和というエポックな時期に際会しての大変なご苦労なども本人の謝辞の中に感じて本当に受章の意義深いことを思い知らされた次第。当日の祝賀会場は、四階大宴会場ロビーをフルに使って二四〇名近い賓客に溢れ返って

いたが、受付から着席へ流れるような接客が快かつたし、正面席の「松」、「梅」、「竹」に近い「橘」の円卓にはうれしいことに学員会三多摩連絡協議会の主だった幹部が顔をそろえられ、楽しい談笑の機会を与えて下さった。格好の写真がないので着席を图示してみると左図の通り

三多摩連絡協議会 会長 浅見裕康様	八王子支部長 岩崎 公様
日野支部長 二澤周治様	立川支部前支部長 五十嵐栄治様
立川女子高校 理事長 青葉卓男様	調布支部長 原 康様
国立支部前支部長 能味寿哉様	小金井支部長 丹羽 豊様
国立支部長 堀田 勲様	立川市助役 豊田和政様

祝賀会は、午後六時〇五分、女性司会者の素敵なトークで始まり、発起人代表、来賓祝辞(青木立川市長ほか)のあと受章者市川夫妻が壇上に立つての謝辞も、ご主人が内助の功を認めて夫人の長年の苦勞を痛う微笑ましい情景に盛んな拍手が送られた。午後七時、岩崎商工会議所会頭の発声でシャンペン乾杯。祝電披露あとはホテル自慢のフラン

ス料理の正餐となった。前菜はフランス輸入ザリガニという。何人の方がテーブルスपीチの続く中を日舞の発表やピアノ・チェロ合奏も入る気配りのよさにも好感がもたれた。

私と堀田支部長は本格的フランス料理を堪能し、赤白のブルゴニーワインをたしなみ、澤の井の特別吟醸酒を舌上に転がし、いつもの発泡酒ならぬサツポロ黒生、キリンの大びんを味わって至福の一刻を過ごすことができた。午後八時半近く、五十嵐栄治さんの中締めでお開きとなった。先刻ホテルマンが配ってくれた大ぶりな手提げ袋には「銀座ミキモト」特製の受章記念という上品なパールのメモスタンドや、紀の国屋銘菓セットも、ずしりと重く入っていた。



財団法人千葉県福祉ふれあい財団 「ユートピア笠森」一泊旅行

平成十三年十一月十八日、久しぶりに一泊旅行を実施しました。

当施設を利用することになったのは、日野支部の二澤支部長から標記財団の理事長で学員会千葉県支部副幹事長 荒 孝一氏を紹介されたからであります。同氏のはからいで千葉県のほぼ中央部(笠間観音の近く)に位置する当施設のマイクロバスが遠い国立迄私達を迎えに来てくれました。さぞ、朝早く出発されたのではないかと思います。

本日の参加メンバー総員十七名は定刻の九時には集合場所である谷保駅前に全員集合、早速目的地に向け出発しました。日曜日の朝ということで、車も少なく中央道、首都高、京葉道を快適に走りぬけ、十一時少し過ぎた頃目的地に到着いたしました。同ホテル内のレストランで昼食をとったあと、マイクロバスで笠森寺(笠森観音)まで送ってもらった。笠森寺は延暦二年(七八四)最澄上人の開創と伝える坂東三十三ヶ所の三十一番札所。観音堂(重要文化財)は高さ十六メートルの巨岩の上に建てられた四方懸造という縁下の柱の長さがすべて

異なる特異な造りとなっている。下から見ると、まるで巨大な岩の上にお寺がのつているように見える。急な階段を上りお参りする。お坊さんは毎日この階段を上り下りするのでしようが、たいへんだと思います。ホテルへの帰りもまたマイクロバスが来てくれて大助かりです。

お楽しみ夕食は宴会場で、テーブルはお料理でいっぱい。ハイライトは新鮮な「あわびの踊り焼き」、あわびには少々気の毒な気がするが、ボリウムとおいしさには大満足。お腹がいっぱいになったところでカラオケがスタート、一人が二曲、三曲と得意の唄を次々と唄って、時間のたつのも忘れてしまいそう。さいごは同伴のご夫人ともども校歌、応援歌を大きな声で唄ってお開きとなった。入浴後、また部屋に集まって重野さんお得意のパソコンによってアレンジされた童謡や歌謡曲の合唱、そして談笑。夜おそくまで一泊旅行ならではの楽しいひと時をすごしました。また当夜は大流星群の到来とかで、「絶対見るぞ」と意気こんでいた連中もお酒と疲れてバタ

ンキョー。しかし、平本聖子さんだけはしっかり見たそうでありませぬ。翌日は本来送迎バスは途中観光地等に寄らないことになっっているようですが、ご無理を言っつて、東京アクアラインの「海ほたるPA」に寄っていただきました。運転手さんから「今日の仕事はみなさんを国立まで送るだけですから、どうぞごゆっくり」との言葉に甘えて、快晴の東京湾の真中でおしゃれなレストランで昼食をとり、海景色を満喫いたしました。



大淵寛教授を迎え
学術講演会開催

「少子社会日本に
未来はあるか」
十一月十一日(日)午後二時より、くにたち公民館にて中央大学学術講演会が開催されました。講師には人口論の第一人者でいらっしゃる経済学部教授大淵寛先生をお迎えして標記演題でこの講演をいただきました。
会場には多数の方々にご来場いただき、少子化問題に対する関心の深さが窺えました。
少子化は高齢化と一体であるので、少子化対策は究極の高齢者対策であること、女性の社会的意識、立場の変化が大きな要因であることなどのお話から、この現象が日本社会の根幹を表している、と、あらためて、思いました。
いまのままの出生率が続けば、

二一〇〇年には、日本の人口は六千万人台にまで減少してしまうだろうとの推計には、本当に驚かされました。



くにたち

田口正明

昭和二十八年旧制法学部卒



町であった頃の国立は、知名度も低かった「くにたち」と読める人は、多くはなかった。だから、立川競輪場の客のなかには、駅の窓口で国立「コクリツ」一枚」という声を、よく耳にした。
そもそも国立(こくりつ)と書

いて国立(くにたち)と読ませることじたい、かなり無理がある。それは、国立音楽大学についてもいえる。

国立音楽大学は、東京芸術大学と似て非なる大学である。東京芸術大学は国立(こくりつ)の大学である。いつぼうの国立音楽大学は、私立大学だ。国立音楽大学と書いてくにたち音楽大学と読ませるには、大変無理がある。

音楽大学は立川市に移転するまえ、国立市にあった。このため、国立(くにたち)音楽大学と呼ばれた。まことに紛らわしい名称だ。まぎらわしい国立は、地名のほかにもある。それは明治初期の銀行名にみることが出来る。渋沢栄一がつくった第一国立銀行は、その一例である。第一国立銀行は国立(こくりつ)の銀行ではない

民間銀行だ。明治の初期、国立銀行条例によりできた銀行は、すべて〇〇国立銀行と命名するよう指導された。いわゆる行政指導である。このため、第一国立銀行のあとにできた銀行はその順番にしたがい、数字が入っている。戦前のナンバースクールの高等学校のようなものだ。一高東大の第一高等学校は、その一例である。
関西の渋沢栄一といわれた松本重太郎の銀行は、国立銀行条例により、3番目にできたので、第三国立銀行とよばれた。
明治の国立銀行条例は、アメリカのナショナルバンクアクトを参考にした。当時の役人は、ナ

ショナルを国立(こくりつ)と訳した。ネーション、つまり国家という概念が希薄な明治初期、むりにやくした結果である。

明治初期から戦前にかけて、国立(こくりつ)という言葉は、あまり使われなかった。戦前の国立大学は、帝国大学であり国立大学であった。東京帝国大学は、その一例である。同じことは、博物館についてもいえる。上野の国立博物館は、戦前は皇室博物館とよばれた。

帝国憲法下にあつては、臣民はあつても、国民は存在しなかった。

このため、国立(こくりつ)という言葉は馴染みがうすく、あまり使われなかった。いいかえれば、戦前、国立(こくりつ)という言葉は、多用されなかった。私見だが、国立という言葉が多用されていたら、国立町のネーミングは、別のものになっていたかもしれない。わが国立白門会も、また、別の名称になっていたかもしれない。



平成13年度 国立白門会決算書

自平成13年4月1日 至平成14年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	決算	予算	科目	決算	予算
年会費	183,000	300,000	印刷費	63,000	200,000
総会費	160,000	150,000	総会費	194,431	200,000
寄付、祝金	109,000	0	交際費	107,050	150,000
特別収入	236,962	30,000	親睦行事費	84,380	100,000
雑収入	790	0	通信費	64,925	60,000
前年度繰越金	390,230	390,230	会議費	15,000	20,000
			事務用品費	29,800	20,000
			雑費	10,000	30,000
			予備費	0	90,230
			次年度繰越金	511,396	
合計	1,079,982	870,230	合計	1,079,982	870,230

平成14年5月19日

会計 高橋雅幸 印
 会計監事 山川昌一 印

平成14年度 国立白門会予算案

自平成14年4月1日 至平成15年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	摘要	金額	科目	摘要	金額
年会費	3000円×100名	300,000	印刷費	白門会ニュース、名簿	200,000
総会費	5000円×30名	150,000	総会費		200,000
特別収入	さくら祭、市民祭	30,000	交際費	近隣支部総会祝金他	150,000
前年度繰越金		511,396	親睦行事費	納涼会、新年会	100,000
			通信費	会員連絡他	70,000
			会議費	役員会他	20,000
			事務用品費		40,000
			雑費		30,000
			予備費		181,396
合計		991,396	合計		991,396

平成13年度活動報告

厚生部

- * 7/20(日) 納涼会(西国立カミカゼ)
- * 10/8(月) くにたちウオーキング参加
- * 10/21(日) ゴルフコンペ(上野原cc)
- * 11/18(日)~19(月)旅行(ユートピア笠森)
- * 1/27(日) 新年会

事業部

- * 4/8(日) 「さくらフェスティバル」参加
- * 4/8(土) 中大多摩校舎観桜会
- * 6/10(日) 定時総会 プリンセスライラ
- * 11/4(日) 「くにたち市民まつり」参加
- * 11/11(日) 中央大学学術講演会(公民館)

組織部

- * 会員増強 未加入者に入会案内文書発送
- * 国立白門会ニュース35号発行

平成14年度活動計画

厚生部

- * 7/20(祝) 納涼会
- * 10/6(日) ゴルフコンペ
- * 10/14(月) くにたちウオーキング参加
- * 11/24(日)~25(月)旅行
- * 1/26(日) 新年会

事業部

- * 4/7(日) 「さくらフェスティバル」参加
- * 4/7(日) 中大多摩校舎観桜会
- * 6/9(日) 定時総会 公民館
- * 11/4(日) 「くにたち市民まつり」参加
- * 11/10(日) 中央大学学術講演会(公民館)

組織部

- * 会員増強 ・ 会員名簿作成
- * 国立白門会ニュース36号発行